

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 3 科 目 名： OT研究法

担当講師名： 板倉 麻紀

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 医学的研究と医療統計の基礎を学ぶ。先行研究の検索から各種研究デザインの理解までを主なテーマとし、卒業後の臨床研究への入門の一助とする。

【講義概要】

作業療法研究の実例を教材として、研究スキルを身につけるための一連の流れを体験する。

後半には、文献レビューの作成を行う。

回数	項 目	内 容
1	研究の概論と倫理	研究とは何か。臨床倫理と研究倫理を学ぶ。
2	研究の流れ	作業療法研究の実例を用いて、研究のアウトラインを学ぶ。
3	研究デザイン	量的研究のデザインを学ぶ。調査研究。
4	研究デザイン	量的研究のデザインを学ぶ。実験研究。
5	研究デザイン	質的研究のデザイン・量的質的研究を組み合わせた手法を学ぶ。
6	研究デザイン	事例研究（シングルケースデザイン）の手法を学ぶ。
7	調査票の設計と尺度	さまざまな尺度を理解し質問紙調査票作成時の諸注意を学ぶ。
8	研究デザイン	文献研究（とくにシステマティックレビュー）の手法を学ぶ。
9	統計解析	仮説検定の基礎・母集団とアウトカム・郡内群間比較を学ぶ。
10	統計解析	相関分析・主成分分析・その他の多変量解析を学ぶ。
11	文献検索	学生の研究疑問ごとに文献検索実習を行う。和英別に
12	文献検索	各検索サイトへのアクセスを具体的に体験する。
13	エビデンス	それぞれの研究デザインのエビデンスレベルを知る。
14	研究計画	研究計画書・倫理審査申請書の作成方法を学ぶ。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

第10回までは講義中心、第11回以降は演習中心の授業形式で行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 3 科 目 名： OT治療学11(義肢装具学)

担当講師名： 板倉 麻紀

単 位： 1 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 義肢装具の基礎を学び、種類・適応疾患・正しい使用方法を理解する。

【講義概要】 義手と上肢装具に関してはチェックアウトの手段も習得する。

スプリント実習では最も基本的なスプリントの製作実習を行い、

製作の一連の流れや対象者への安全確認も理解する。

回数	項 目	内 容
1	切断概論・義手の種類	切断原因・断端長による呼称・義手の分類のしかたについて学ぶ。
2	上腕義手	上腕義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
3	前腕義手	前腕義手の構造・パーツ・機能的特徴と使用方法を学ぶ。
4	義手のチェックアウト	義手がユーザに適しているかチェックする方法を学ぶ。
5	下肢装具	短下肢装具を中心に用途や着脱方法の指導法を学ぶ。
6	体幹装具	装具療法。頸椎装具・側彎症装具の特徴と適切な使用方法を学ぶ。
7	上肢装具	疾患別・障害別に、上肢装具の用途や装着時間や着脱方法の
8	上肢装具	指導法などを学ぶ。
9	各種歩行補助具の使用法	杖・車椅子・歩行器の構造と特徴・サイズなどの調整方法を
10	各種歩行補助具の使用法	学ぶ。校内において使用体験を行う。
11	スプリント製作実習	スプリントの分類・トレース法と直接法などの基本的な技法を学ぶ。
12	スプリント製作実習	トレース法を用いてカックアップスプリントと短対立装具を、
13	スプリント製作実習	直接法を用いて手指用スプリントを製作する。
14	スプリント製作実習	
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域・装具治療の実務経験）
 義肢装具の扱いをメインとした授業なので、動きやすい服装で臨むこと。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 3 科 目 名： 地域OT学

担当講師名： 奈良 研治

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 地域作業療法の基本的な理論と実践例を通して、作業療法士に必要な知識を身につける。

【講義概要】

地域作業療法を支える制度、社会資源や介護保険・障害者総合支援法について学ぶ。

地域リハにおける作業療法士の役割を学び、事例検討を重ねて、臨床的な動き方を理解する。

回数	項 目	内 容
1	地域リハビリテーション	① 地域とは、地域リハの考え方、C B Rについて理解する。
2	〃	② 地域リハに関わる連携についてを理解する。
3	地域作業療法	① 地域作業療法の考え方を理解する。
4	〃	② 地域作業療法における具体的な内容を理解する。
5	地域作業療法を支える制度	① グループワーク：社会資源や介護保険などを理解する。
6	〃	② グループワーク：障害者総合支援法(制度・サービスの体形、内容)を理解
7	地域リハビリテーションの実践	地域リハビリテーションについて理解する。
8	地域作業療法の実践	① 地域作業療法を進めるにあたって
9	〃	② 〃
10	福祉用具	貸与と購入
11	地域作業療法実践	③ 地域における作業療法対象者の役割、作業療法の役割を理解する。
12	〃	④ 〃
13	作業療法実践事例グループ	① 地域で行われている作業療法の実際について理解する。
14	〃	② 〃
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/高齢期障害および身体障害領域の実務経験）

講義方式を基本とするが、後半は事例検討のグループワーク演習を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 3 科 目 名： 実習せけ-II

担当講師名： OT 教員(笹野)

単 位： 1 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 作業療法の臨床に関連した諸事（倫理・知識・技術など）について確認し、インターン実習に向けて準備を行う。また、実習後には症例発表を通してフィードバックを行い、臨床現場での体験について理解を深める。

【講義概要】

臨床実習の実習前評価および実習後評価を主とする。

各領域の作業療法に関する総合的な確認を行い、学生の習熟度に合わせたフィードバックを行う。

回数	項 目	内 容
1	実習にむけて	評価実習のフィードバックとインターン実習の概要説明
2	領域別学習	各専門領域の教員による指導（笹野）
3	領域別学習	各専門領域の教員による指導（斎藤）
4	領域別学習	各専門領域の教員による指導（奈良）
5	領域別学習	各専門領域の教員による指導（板倉）
6	領域別学習	各専門領域の教員による指導（中村）
7	実習前評価	領域別学習のまとめと確認（実習前評価）
8	実習オリエンテーション	オリエンテーション①
9	実習オリエンテーション	オリエンテーション②
10	実習後評価	症例発表とフィードバック
11	実習後評価	症例発表とフィードバック
12	実習後評価	症例発表とフィードバック
13	実習後評価	症例発表とフィードバック
14	実習後評価	症例発表とフィードバック
15	実習後評価	症例発表とフィードバック

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

実習前評価と実習後評価を含む。前半の講義後に実習前評価を行いケーススタディの発表とフィードバックによって、実習後評価を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 3 科 目 名： 作業療法総合

担当講師名： OT 教員(笹野)

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）：3年間で学んだ基礎医学および作業療法の各領域について、重要事項を理解し、作業療法士としての資質を向上させる。

【講義概要】

作業療法に関わる幅広い知識を統合すべく、専門分野の臨床像とその理解のベースとなる基礎医学を事例を交えて集中的に学び、根拠に基づく作業療法を理解する。

回数	項 目	内 容
1	日常生活活動	ADL(奈良)
2	基礎医学	解剖学・生理学(板倉)
3	臨床評価	画像評価(板倉)
4	高齢期作業療法	高齢期作業療法(奈良)
5	身障領域作業療法	運動学と義肢装具(板倉)
6	高齢期作業療法	高齢期(奈良)
7	身障評価	ROM・MMT(中村)
8	身障評価	ROM・MMT(中村)
9	精神領域	精神科作業療法(齋藤)
10	精神領域	精神科作業療法(齋藤)
11	身障領域作業療法	中枢神経系作業療法(笹野)
12	身障領域作業療法	中枢神経系作業療法(笹野)
13	身障評価	感覚検査(中村)
14	精神領域	精神科作業療法(齋藤)
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義とケースステディ(演習)を交えた形式で授業を行う。

各回に必要な資料(プリント)は当日配布します。